



このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

他者とかかわる心の発達心理学

子どもの社会性はどのように育つか

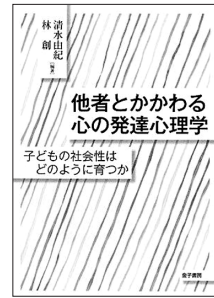
清水由紀

どうして子どもを対象とした研究は、こんなに面白くワクワクするのか!? 著者たちが授業で発達について語る時つい興奮してしまう、その感覚をそのまま紙面に落とし込むことを本書は試みました。

12名の研究者が、人の最も人間らしい側面、すなわち「他者とかかわる心」の発達に関する最先端の研究を紹介しています。まず子どもの社会性をめぐる素朴な疑問を、二つのリサーチクエストの形で各章の最初に提示しました。そして、これらの疑問を「どのように科学的な研究に乗せるの

か」、さらに「結果をどう分析し解釈するのか」というプロセスを読者が追えるようにしました。そこにはどんな工夫が施され、どのような苦勞が待ち受けていたのか。各章の最後にあるコラムを読み終る頃には、その領域の背景知識や研究のノウハウを知ることができるようになっていきます。

各章では、用語解説のほか、研究知見を踏まえた「教育へのヒント」も盛り込んでいますので、これから卒業研究に取り組む皆さんや、教員・保育者および保護者の方々にもお読みいただければと願っています。



編著 清水由紀・林創

発行 金子書房

A5判 / 224頁

定価 本体 2,700円 + 税

発行年月 2012年3月

しみず ゆき

埼玉大学教育学部准教授。専門は発達心理学。著書はほかに、『学校と子ども理解の心理学』（編著、金子書房）、『子どもの暮らしの安全・安心～命の教育へ』（分担執筆、金子書房）、『発達心理学』（分担執筆、ミネルヴァ書房）、『よくわかる乳幼児心理学』（分担執筆、ミネルヴァ書房）、『パーソナリティ特性推論の発達過程』（単著、風間書房）など。

認知面接

目撃者の記憶想起を促す心理学的テクニック

宮田洋・高村茂

本書は1992年に出版されたロナルド・フィッシャーとエドワード・ガイゼルマン共著『Memory-enhancing techniques for investigative interviewing: The cognitive interview』の全訳である。原著者の二人は、アメリカの大学で教鞭を執る認知心理学者であり、捜査機関から効果的な目撃者面接の開発依頼を受け、実験室での基礎実験を重ね、さらに犯罪捜査における捜査員の面接を詳細に調査して、この認知面接を開発した。

現在、海外の多くの国が認知面接を実際の捜査に導入しており、

20年前に出版されたこの原著は、今もなお、マニュアルとして世界の捜査員に熟読されている。一方、日本では認知面接の存在はあまり知られておらず、現在、取調べなどの捜査面接の高度化が日本の捜査機関において検討されているが、捜査員が科学的な方法に基づいて目撃者の記憶を引き出す技術を学ぶには、この本はまたとない良書であろう。

同時に、本書の上梓が、日本の犯罪捜査において新たな心理学応用分野が展開される契機となれば、これに勝る喜びはない。



監訳 宮田洋

訳 高村茂・横田賀英子

横井幸久・渡邊和美

発行 関西学院大学出版会

A5判 / 296頁

本体 2,600円 + 税

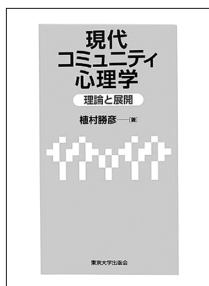
発行年月 2012年6月

みやた よう

関西学院大学名誉教授。著書はほかに、『新生理心理学（全3巻）』（監修、北大路書房）など。

たかむら しげる

徳島県警察本部科学捜査研究所専門研究員。著書はほかに、『犯罪者プロファイルング入門』（共編、北大路書房）など。



著 植村勝彦
発行 東京大学出版会
A5判 / 376頁
本体 3,400円 + 税
発行年月 2012年6月

うえむら かつひこ
愛知淑徳大学名誉教授・特任講師。専門はコミュニティ心理学、社会心理学。著書はほかに、『コミュニティ心理学入門』（編著、ナカニシヤ出版）、『よくわかるコミュニティ心理学（第2版）』（共編、ミネルヴァ書房）、『コミュニティ心理学』（単訳、ミネルヴァ書房）、『コミュニケーション学入門』（共著、ナカニシヤ出版）など。

現代コミュニティ心理学

理論と展開

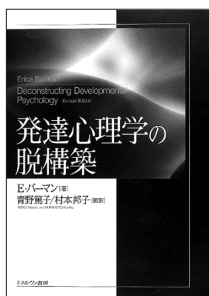
植村勝彦

これまでわが国では、コミュニティ心理学は臨床心理学の一ブランチとか、アプローチの一つと認識されてきたきらいがありました。本書は、まずはこの誤解を解くことを大きな目的としています。

確かに、その誕生および当初には、個人臨床に飽き足らない臨床心理学者たちが中心を支えていましたが、扱われる問題が多様・複雑になるに伴い、アプローチや視点も、世界の潮流は大きくシフトしてきています。つまり、かつてのような「臨床心理学的地域援助論＝コミュニティ心理学」ではな

くなっています。精神保健問題にも増して、社会正義(例：差別)や社会変革(例：ホームレス)の問題を指向し、個人のみならずそれ以上にコミュニティ自体をエンパワーし、コミュニティのウェルビーイングの向上を目指しています。

本書では、こうした新しい「現代の」コミュニティ心理学の姿をお伝えしようと、12の主要なテーマや理念にしぼり、かつ、子ども、高齢者、障害者、市民の四つの対象枠にそれらを割り振ることで、理論と実証の両面からその理解を助けようとしています。



監訳 青野篤子・村本邦子
訳 青野篤子・五十嵐靖博・滑田明暢
発行 ミネルヴァ書房
A5判 / 460頁
本体 6,500円 + 税
発行年月 2012年11月

あおの あつこ
福山大学人文学部教授。専門は社会心理学、ジェンダー心理学。著書はほかに、『ジェンダー・フリー保育』（単著、多賀出版）、『社会心理学』（分担執筆、ミネルヴァ書房）、『ジェンダーの心理学ハンドブック』（共編、ナカニシヤ出版）、『働くことの心理学』（分担執筆、ミネルヴァ書房）など。

発達心理学の脱構築

青野篤子

本書は、Deconstructing developmental psychology 2nd ed.の全訳である。著者のエリカ・バーマン (Erica Burman) は、英国の心理学者で、ディスコース分析やフェミニスト研究が専門である。世界をまたにかけた子ども・女性支援の活動や調査研究を行っており、日本の研究者とも交流がある。初版は1994年に出版されたが日本語訳はなく、混迷を深める心理学に警鐘をならすべく改訂された第2版の翻訳は是非必要と思われた。

本書は、子どもの能力をどのようにとらえたらいいのか、発達す

るとはどういうことなのか、家庭とはどういう場所か、母親と父親は子どもにとってどのような存在なのか、発達心理学は社会にどのように関係してきたのか、発達と教育はどのように結びついているのか、といった問題にヒントを与えてくれる。ピアジェ、ヴィゴツキー、ラカン等の心理学の大家の位置づけも変わってくるはずだ。共同監訳者の村本さんは臨床心理学、共訳者の五十嵐靖博さんは批判心理学・理論心理学、滑田明暢さんは質的研究が専門であり、それぞれの経歴や知識に助けられた。